

日本経済新聞社編「ユーロが危ない」

日経ビジネス在庫、日本経済新聞出版社 2010年10月1日刊を読む

止まらぬ欧州統合 - ヒトの流れに国境なし -

1. 7月14日はフランスにとって特別な日だ。1789年のフランス革命を祝う式典でパリ市街地がお祭り気分に含まれるだけではない。この日を境にフランス全土がバカンスシーズンに突入し、ビジネス街は閑散とした雰囲気が漂うようになる。ギリシャ危機で欧州各国に緊縮財政ムードが高まった2010年、フランス政府は式典の一部であるエリゼ宮(大統領府)でのパーティーを自粛したが、雷雨にもかかわらず、大勢のパリ市民は夏休みの本格開始に浮かれ気味だった。
2. 欧州宇宙機関(ESA)に勤めるブルーノ・サントスさんも14日の夕方、いそいそとパリの自宅を出発した。目指したのは長距離列車が発着する東駅。プラットフォームに滑り込んできた夜行列車に乗ると予約していた個室寝台に荷物を運び、窓越しに地平線を眺める。欧州北部の夏は夜10時過ぎまで薄明るい。遅い夕焼けを見ていると、いつしか寝入ってしまった。知らぬ間に列車はドイツとの国境を越え、東へとひた走る。朝起きれば、もう目的地のベルリンは目の前だ。
3. 実はサントスさん、パリのほかにベルリンにも家を持っている。統一ドイツの首都ながらも物価が比較的安く、クラシック音楽や美術館、博物館などが集中するベルリンの魅力に引かれ、平日は職場のあるパリで過ごし、連休になるとベルリンにやってくる。「パリは刺激的だけど疲れる。言葉も雰囲気も異なるベルリンにいるとストレス解消になる」と言う。ドイツでは歌劇場や博物館などを巡り、疲れを癒やす。
4. 勤め先のESAは衛星の打ち上げなどを手掛け、フランスにある本部はドイツやイタリアなどの政府系機関とも密接に連携する。職場では英語、フランス語の2カ国語が飛び交う。サントスさんはドイツにも駐在していたことがあるため、ドイツ語を含めた3カ国語には不自由しない。旅券も持たず、面倒な荷物検査もなしに、パリとベルリンの間を国内旅行の感覚で行き来する。
5. 同じころ、ベルリンよりさらに東に位置するバルト3国のラトビアの首都リガでは、自営業のデアアナ・ハードヴィガさんがドイツ旅行の準備を進めていた。ベルリンとリガとの間は地元の航空会社エア・バルティックが直行便を毎日、飛ばしており、所要時間はわずか90分。早めに予約すれば往復100ユーロ(約11,000円)もかからないことがある。だが今回は自家用車をフェリーに積み、北ドイツを目指すことにした。「たまにはゆっくりとした旅がしたいわ」(ハー

ドヴィガさん)。そうと思えば手続きは簡単。インターネットで客室を予約すればいい。あとはリガ港のフェリーターミナルに出発当日に向かうだけ。外国航路だが、面倒な出国審査もいらぬ。

- 6 .ラトビアは 08 年の金融危機で信用不安の渦に巻き込まれ、国際通貨基金 (IMF) や欧州連合 (EU) などの資金支援を受けた。「資金水準は 08 年平均よりも 25% 下がった」と同国のドンブロウスキス首相は明かすが、「下がったのは公務員が中心で、民間企業はそれほど打撃を受けていない」(同国外交筋) という。ハードヴィガさんのような自営業は外需に支えられ、それほど売り上げが落ちなかった。むしろ「バブルが崩壊して、物価が安くなって住みやすくなった」(ハードヴィガさん)。
- 7 .バルト 3 国の国民にとってドイツを含めた「西欧」は特別な存在だ。第 2 次世界大戦前まではドイツやスウェーデンなどと政治・経済のみならず、歴史や文化でも価値観を共有していたのに、旧ソ連に組み込まれたことで関係を断絶せざるを得なかった。ハードヴィガさんも「1989 年にベルリンの壁が崩壊するまでは“旅行” といえは旧共産圏ばかりで、もううんざり。休みはドイツより西で過ごしたい」と言う。かつてレニングラード(現サンクトペテルブルク)は飽きるほど見て回った。ドイツも旧東独はいまさらに行きたくない。20 年前まではなかなか行くチャンスがなかった「鉄のカーテンの向こう側」には、なおあこがれがある。生活水準の格差が縮まったいまでもそれは変わらない。
- 8 .だからこそバルト 3 国は EU にも、国境検問の廃止協定(シェンゲン協定)にも参加した。ギリシャ危機で通貨ユーロの信認が金融市場で揺らいでいるにもかかわらず、エストニアは 2011 年に通貨統合にも加わる予定で、ラトビアもユーロを導入するとの目標を捨てていない。

P222 ~ 226

[コメント]

欧州内の 2 か所居住、3 か所移住は、人の一生を豊かなものにする側面がある。ならば、日本国内でも 2 か所居住、3 か所居住をもっともっと促進し、日本人も豊かな生活を目指したらどうかと考えざるを得ない。低迷する消費拡大のカギはこの辺にありそうだ。

日本は成熟社会になったのだから、成熟社会の先輩として何周も先を走っている欧州から、もっともっと学んだ方がよい。

- 2010 年 10 月 2 日 林 明夫記 -